

MDPRO では以前より、国内で上場している医療機器関連企業の IR 情報から産業動向の調査をおこなっています。

本稿では、2024 年 3 月期締め企業の決算報告が出揃い、各社のホームページ等で IR 情報が開示されたことをうけて、IR 情報を元とした医療機器関連企業の業績状況について紹介します。

調査対象企業 47 社の FY23^{注1)}における売上高、営業利益、海外売上高比率、研究開発費を表 1 に示します。なお、対象範囲を医療機器関連が含まれるセグメントのみとしているため、該当企業は企業名とともにセグメント名を記載しています。

表 1 調査対象企業 47 社 FY23 業績一覧

企業名 (セグメント名)	主要製品・事業内容	売上高 [億円]	営業 利益 [億円]	海外 売上高 比率	研究 開発費 [百万円]
オリンパス	内視鏡、医療サービス、消化器科処置具、泌尿器科製品、呼吸器科/耳鼻咽喉科/婦人科製品、生体材料、整形外科用器具等	9,362	436	87%	70,795
テルモ	血管造影用ガイドワイヤー・カテーテル、脳動脈瘤治療用コイル・ステント、人工心肺、ステントグラフト、針、シリンジ、輸液・シリンジポンプ、血圧計、体温計、血糖測定システム、血液バッグ等	9,219	1,568	77%	69,060
富士フイルム HD (メディカルシステム事業)	メディカルシステム機材 (X 線画像診断、医用画像情報システム、CT、MRI、内視鏡、超音波診断装置、血液生化学検査機器) 等	6,596	36	NR	NR
旭化成 (ヘルスケア事業)	医療用医薬品、診断薬、血液透析・アフレスス (血液浄化療法) 関連機器、AED、除細動器、睡眠時無呼吸症治療・診断機器等	5,538	485	80%	47,783
キヤノン (メディカルビジネスユニット)	CT 装置、超音波診断装置、X 線診断装置、MRI 装置、検体検査装置、デジタルラジオグラフィ、眼科機器等	5,523	316	64%	47,182
HOYA (ライフケア事業)	眼鏡レンズ、コンタクトレンズ、内視鏡、自動内視鏡洗浄装置、処置具、眼内レンズ、人工骨、整形インプラント等	5,300	1,210	71%	22,251
シスメックス	検体検査試薬、検体検査機器等	4,615	784	85%	31,402
ニプロ (医療関連事業)	注射・輸液関連、人工臓器関連、高機能関連、透析関連の医療機器、医薬品等	4,536	423	51%	11,260
日本光電工業	生体計測機器 (脳波計、心電計等)、生体情報モニタ、治療機器 (除細動器、AED、人工呼吸器等)、血球計数器等	2,220	196	36%	6,996
オムロン (ヘルスケア事業)	電子血圧計、ネブライザー、低周波治療器、心電計、電子体温計、酸素発生器、動脈硬化検査装置、血糖計等	1,497	185	84%	8,273
帝人 (ヘルスケア事業)	医薬品、HOT 用酸素濃縮装置、CPAP 用治療器、在宅医療サービス、その他ヘルスケア関連製品等	1,447	73	10%未	22,900
フクダ電子	心電計、超音波画像診断装置、自動血球計数測定装置等の生体検査装置、生体情報モニタ、カテーテル、人工呼吸器等の治療装置等	1,403	265	10%未	4,740

※文中企業名は(株)を省略して記載。掲載順は FY23 の売上高の高い順。NR=Not Reported、▲はマイナスを表す。

注 1) 本稿における FY (Fiscal Year) は、当該年 4 月期から翌年 3 月期までの決算値を同一決算年度として集計しています¹⁾。(例：FY23=2023 年 4 月期から 2024 年 3 月期)

表 1 調査対象企業 47 社 FY23 業績一覧 続き

企業名 (セグメント名)	主要製品・事業内容	売上高 [億円]	営業 利益 [億円]	海外 売上高 比率	研究 開発費 [百万円]
コニカミノルタ (ヘルスケア事業)	画像診断システム（デジタル X 線画像診断、超音波診断システム等）、遺伝子検査、プライマリケア関連サービス、創薬支援等	1,390	▲ 13	NR	12,200
メニコン	コンタクトレンズ及びケア用品等	1,162	90	32%	5,140
PHC HD (糖尿病マネジメント事業)	血糖自己測定システム、POCT 製品等の体外診断機器、電気式医薬品注入器等	1,091	153	93%	2,460
ニコン（ヘルスケア事業）	生物顕微鏡、細胞培養観察装置、超広角走査型レーザー検眼鏡等	1,079	54	88%	7,880
朝日インテック	血管内治療用ガイドワイヤー・カテーテル等	901	180	82%	9,723
日機装（医療部門）	血液透析関連製品、CRRT 装置、空間除菌消臭装置等	839	56	40%	NR
トプコン（アイケア事業）	3次元眼底像撮影装置、眼底カメラ、オートレフラクトメータ、スリットランプ、眼圧計、レンズメータ、眼科用レーザー光凝固装置等	750	67	87%	3,753
カネカ（ヘルスケアソリューションユニット）	血液浄化装置、カテーテル、遺伝子検査診断関連製品、低分子医薬品原料、API、バイオ医薬品等	749	129	NR	3,373
島津製作所 (医用機器事業)	血管撮影システム、X 線 TV システム、X 線撮影システム、PET システム、放射線治療装置用動体追跡システム、医療情報システム等	723	48	52%	1,037
ジェイ・エム・エス	輸液、経腸栄養、透析、人工心肺、カテーテル、急性血液浄化、血液・細胞分離、細胞関連デバイス等	653	▲ 3	38%	1,518
H.U. HD (臨床検査薬事業)	持株会社である富士レピオ・ホールディングスの事業（ルミパルス事業、CDMO・原材料供給事業等）	619	129	NR	9,159
東レ（ライフサイエンス事業）	医薬品・医療機器（血液透析ろ過用ダイアライザー他）	522	▲ 13	17%	2,115
ナカニシ (歯科製品関連事業)	治療用ハンドピース、技工用マイクロモーター & ハンドピース、外科用ハンドピース及び滅菌器等	521	186	85%	NR
日本ライフライン	リズムデバイス、EP/アブレーション、心血管関連、消火器等	514	109	10%未	2,366
ホギメディカル	医療用消耗品、医療機器（R-SUD 製品）及び医療用不織布製品等	391	42	10%未	297
東洋紡 (ライフサイエンス事業)	診断薬用酵素等のバイオ製品、医薬品、医用膜、医療機器（神経再生誘導チューブ、人工腎臓用中空糸膜）等	346	44	51.2%	1,600
堀場製作所（医用）	血球計数装置、免疫測定装置、生化学用検査装置、血糖値検査装置等	327	6	79%	3,111
松風（デンタル関連事業）	人工歯類、研削材類、金属類、化工品類、セメント類、機械器具類	326	47	57%	NR
シード	コンタクトレンズ、レンズケア用品、眼鏡等	324	21	12%	2,063
マニー	手術用機器（皮膚縫合器、眼科ナイフ等）、手術用針付縫合糸、手術用縫合針、歯科用根幹治療機器、歯科用回転切削機器等	245	72	83%	2,187

表 1 調査対象企業 47 社 FY23 業績一覧 続き

企業名 (セグメント名)	主要製品・事業内容	売上高 [億円]	営業 利益 [億円]	海外 売上高 比率	研究 開発費 [百万円]
A&D ホロン HD (医療・健康機器事業)	家庭用デジタル血圧計、血圧監視装置、全自動血圧計、精密体重計、超音波吸入器等	236	42	77%	1,074
日本エム・ディ・エム	整形外科分野の医療機器（人工関節、骨接合材料、脊椎固定器具）等	232	20	44%	874
ニチパン（メディカル事業）	医薬品、医療機器、化粧品、医療補助テープ、テーピングテープ等	227	62	NR	708
メディキット	人工透析用留置針、静脈留置針、イントロデューサー、血管造影用カテーテル等	219	47	15%	278
日本電子 (医用機器事業)	自動分析装置、臨床検査情報処理システム、全自動アミノ酸分析機等	153	5	19%	1,455
リオン（医療機器事業）	補聴器（補聴器、難聴者訓練用機器等）、医用検査機器（オージオメータ、聴力検査室等）等	127	13	10%未	949
クリエートメディック	ディスプレイカテーテル・チューブ等	126	8	34%	850
テクノメディカ	採血管準備装置・システム、検体検査装置等	103	18	9%	516
大研医器	吸引器、注入器関連、電動ポンプ関連、手洗い設備関連等	98	14	0%	249
川本産業 (メディカル事業)	衛生材料、医療用品、感染管理製品、介護用品等	81	3	NR	NR
プレジジョン・システム・サイエンス	DNA/RNA 自動抽出装置、免疫化学発光測定装置、臨床検査用の検体前処理装置、全自動 PCR 検査装置等	53	▲ 11	59%	NR
パイオラックス（医療機器）	IVR（血管内治療）、内視鏡治療及び整形治療機器等	47	0	14%	57
日本アイ・エス・ケイ (デンタル関連事業)	歯科医療に関する設備・機器類	18	1	NR	84
オーベクス (メディカル製品事業)	薬液注入器、血管造影用ガイドワイヤー等	16	1	NR	35
日本フェンオール (メディカル部門)	人工腎臓透析装置等	13	1	NR	81

[出所] FY23 の IR 情報より筆者作成

<医療機器関連企業全体および対象企業の売上高動向>

FY17 より継続して情報収集できた調査対象企業 44 社^{注 2)}の総売上高の推移を図 1 に示します。FY17 から FY23 の計 7 年間の CAGR は 6.4%となっており、FY20 以降の 4 年間ではより成長が加速していることはわかります。(FY20-FY23 の CAGR : 10.6%)

図 2 は、FY23 売上高と売上高 CAGR (FY17-23) の関係を示しています。サンプル数が多いので一概には言えませんが、売上高が大きい企業ほど CAGR の高い結果となっています。全体平均の CAGR6.4%を超える企業は 15 社あり、最も伸長している企業は朝日インテック (CAGR : 13.2%) であり、FY23 売上高が最も大きい企業はオリンパス (売上高 : 9,362 億円) です。

注 2) 表 1 から富士フィルム HD、PHC HD、H.U. HD を除いた計 44 社が調査対象。

医機連通信 324 号ミニコラム²⁾で報告したように、厚生労働省が実施している医薬品・医療機器産業実態調査（2024 年 3 月公開）³⁾においても、売上高は FY21 以降に高い伸びを示し、売上高集中度の上位企業（上位 5 社）の全体に占める割合が増えています。図 1 および図 2 も同様の傾向を示していることから、限られた調査対象企業 44 社の IR 情報からの分析ですが、産業界全体の分析の一助になることがうかがえます。

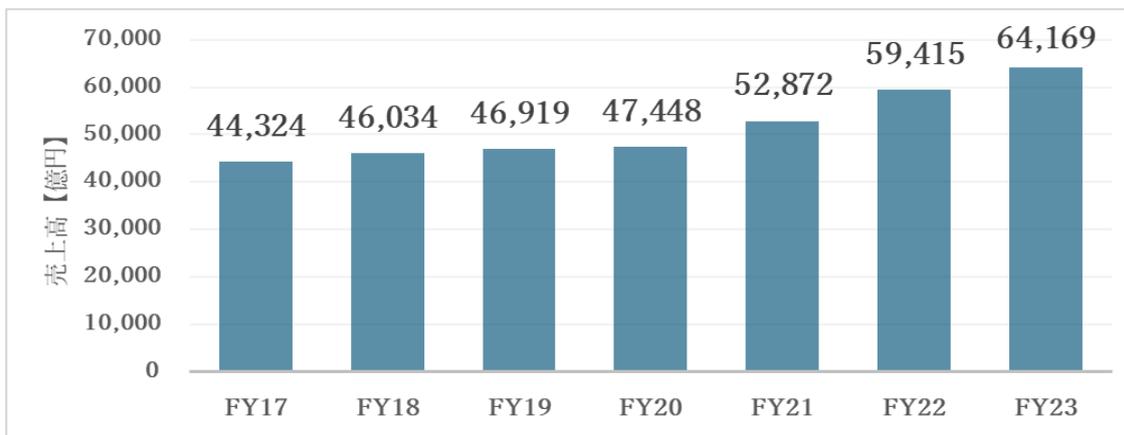


図 1 対象企業（44 社）全体の売上高推移

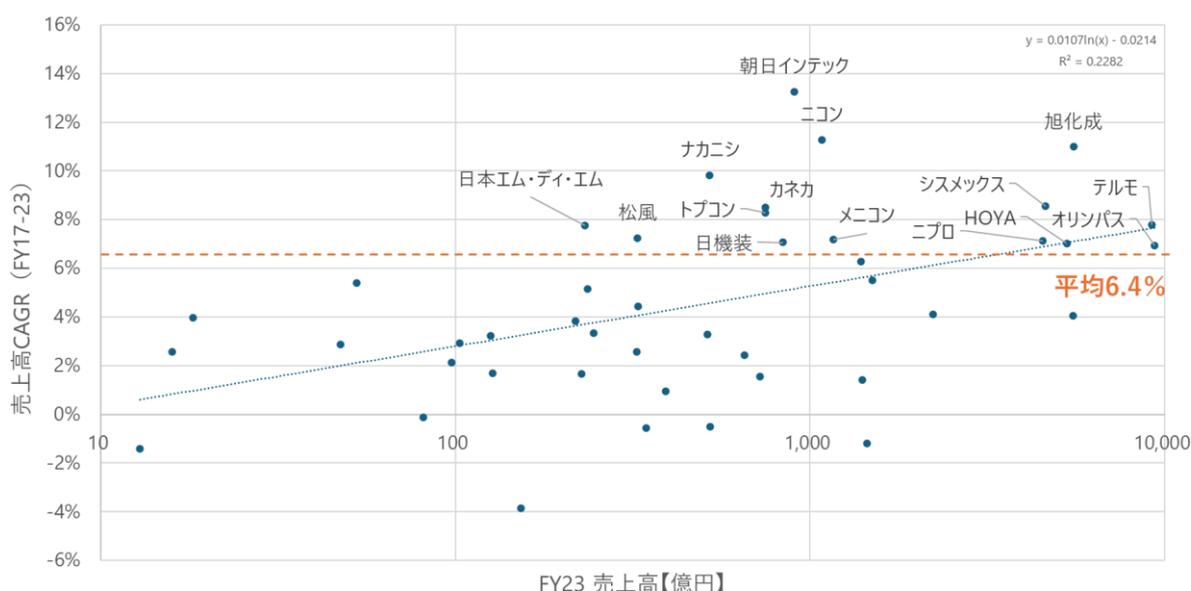


図 2 FY23 売上高と売上高 CAGR（FY17-23）の関係

<海外(地域別)売上高比率の推移>

次に、表 1 の 47 社のうち、海外(地域別)の売上高が開示されている 27 社について FY17 から FY23 の地域別の売上高比率の推移を図 3 に示します^{注 3)}。

医療機器関連企業の海外売上高比率は、年々増加傾向にあり、FY23 では 70.8%を海外売上高が占めており、日本より米州/米国（以下、米国）の割合のほうが多い結果となっています（日本：29.2% 米国：29.6%）。為替の影響や、企業によっては、調査期間の中で、報告地域の変更やセグメントの変更などがあり、必ずしも同じ条件での推移を表すものではありませんが、全体の傾向としては、海外売上高割合の増加および米国割合の増加が見て取れます。

注 3) オリンパス、テルモ、旭化成、シスメックス、HOYA、キヤノン、ニプロ、オムロン、ニコン、日本光電工業、朝日インテック、ナカニシ、島津製作所、メニコン、日機装、堀場製作所、ジェイ・エム・エス、マニー、松風、A&D ホロン HD、日本エム・ディ・エム、東レ、クリエートメディック、シード、メディキット、プレジジョン・システム・サイエンス、テクノメディカの 27 社。FY17 のみニコンと HOYA を除く 25 社分で集計。米州は、米州(一部、南米を含むものもあり)、北米を含む。

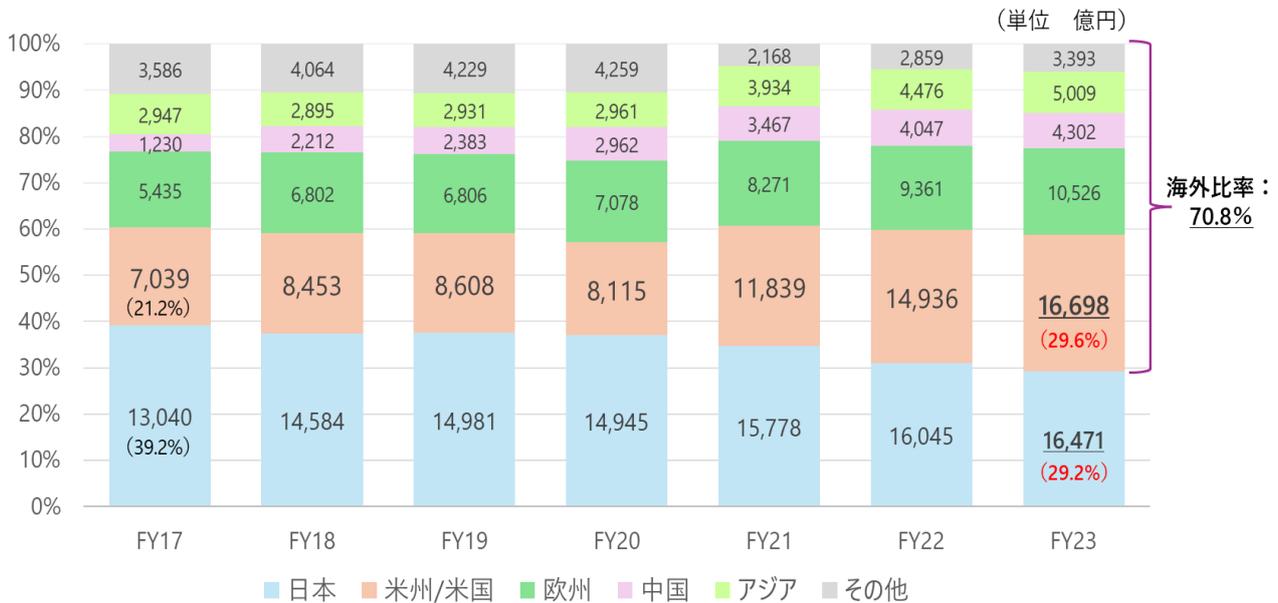


図3 地域別売上高比率の推移

次に、地域別売上高比率の高いFY23米国売上高にフォーカスを当てたいと思います。

図4では、表1の47社のうち、米国売上高が開示されている27社について、FY23米国売上高と全売上高に占める米国売上高比率の傾向を示します^{注4)}。両者は正の相関があり、米国売上高比率の平均は29.6%で、平均以上の企業は6社ありました。6社の事業内容を見ると、特定の分野や領域に偏っているわけではなく、各企業がそれぞれ企業の強みを米国市場で発揮していることが推察されます。米国市場は、世界の医療機器市場のうち46%を占めているとFitch Solutions社より報告⁴⁾されています。オリンパス、テルモ、旭化成といった国内を代表する医療機器関連企業が、図4の中で高い米国売上高比率を示していることから、医療機器関連企業ひいては医療機器産業の発展に米国市場での売上高拡大が極めて重要であることが改めてうかがえます。

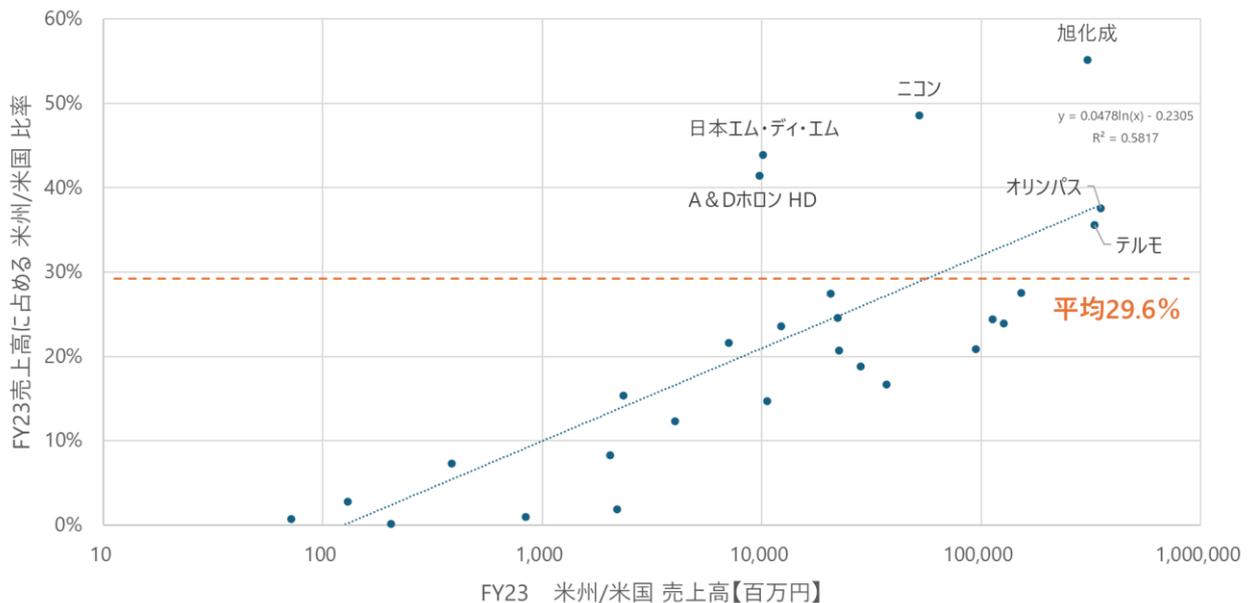


図4 FY23 米州/米国売上高と売上高比率の関係

注4) オリンパス、テルモ、旭化成、シスメックス、HOYA、キャノン、ニプロ、オムロン、ニコン、日本光電工業、朝日インテック、ナカニシ、島津製作所、メニコン、日機装、堀場製作所、マニー、松風、A&Dホロン HD、日本エム・ディ・エム、プレジジョン・システム・サイエンス、テクノメディカ、帝人、PHC HD、トプコン、日本電子、パイオラックスの27社。

<対象企業の研究開発費動向>

最後に、表1の47社のうち、医療機器関連セグメントの研究開発費が開示されている41社について、FY23研究開発費と売上高に占める研究開発費比率の傾向を図5に示します^{注5)}。対象企業の研究開発費売上高比率の平均は、5.6%であり、平均以上の企業は19社ありました。世界に目を向けると、経産省の医療機器産業ビジョン⁵⁾によれば、海外企業売上高上位5社の研究開発費売上高比率の平均は、近年7%台で推移しているとされています。売上高世界のMedtronicの売上高は300億ドルを超えており⁶⁾、研究開発費売上高比率を考えると多額の研究開発費が投資されていることがわかります。研究開発費は、目先の売上高に反映されるものではなく、中長期的な成長への投資を表すものであるため、医療機器関連企業が今後も研究開発への投資に積極的でいられるよう産業界の更なる発展と行政の後押しが期待されます。

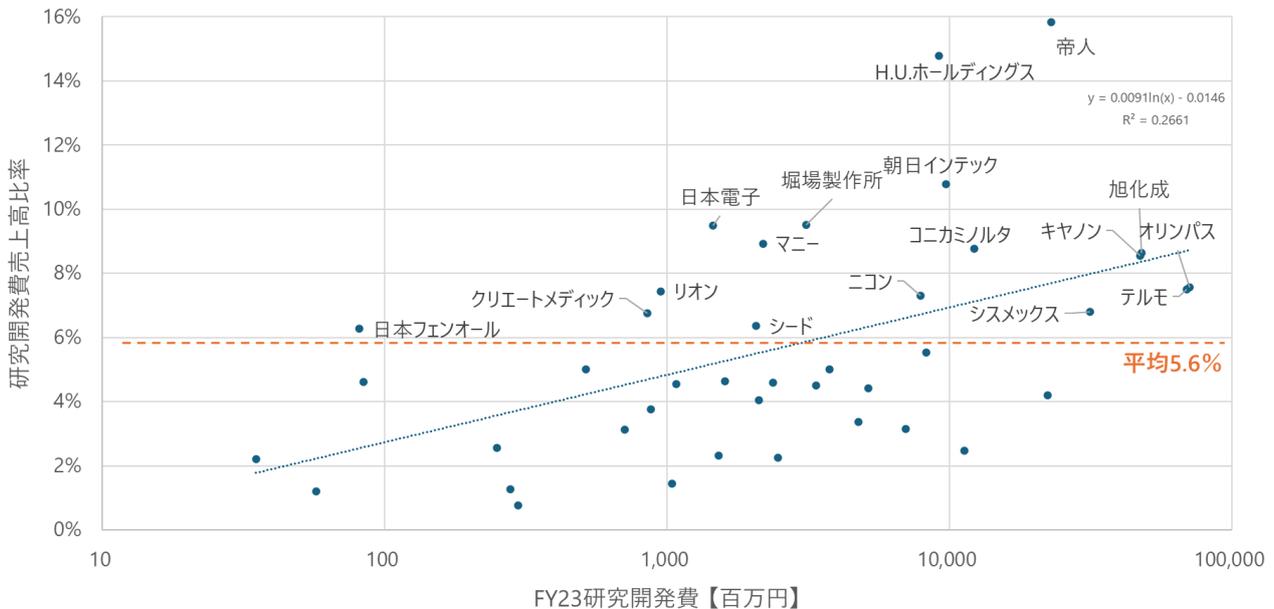


図5 FY23 研究開発費と研究開発費売上高比率の関係

本稿では、IR情報を元とした医療機器関連企業の業績傾向を分析しました。対象企業が上場会社に限られる点や医療機器の対象セグメントが限定しきれない点など幾つかの制限はありますが、医療機器産業の成長の一面を表す結果となりました。

IR情報では、今回取り上げた内容以外にも多くのデータが公開されています。行政から提供されるオープンデータを活用した産業動向の分析と、IR情報を活用した医療機器関連企業の分析を合わせて、今後も産業振興に寄与するための産業動向の調査や分析を行い、発信を続けていきます。

注5) 表1から富士フィルムHD、ナカニシ、プレジジョン・システム・サイエンス、松風、川本産業、日機装を除いた計41社。

◇出典 (URLは2024年8月25日時点)

- 1) 医機連, 医機連通信 MDPRO ミニコラム 「2021 年度決算報告から見る医療機器企業の業績、海外売上高比率の推移」医機連通信 302号,
< https://www.ifmda.gr.jp/wp/wp-content/uploads/2022/08/MDPROminicolumn302_202208.pdf >
- 2) 医機連, 医機連通信 MDPRO ミニコラム 「医療機器産業実態調査 2022 年度版 速報」医機連通信 324号,
< https://www.ifmda.gr.jp/mdpro_childcat/report2/ >
- 3) 厚生労働省, 『医薬品・医療機器産業実態調査: 統計結果の公表情報』,
< https://www.mhlw.go.jp/toukei/kouhyou/e-stat_87-1.xml >
- 4) Fitch Solutions, Worldwide Medical Device Market Forecasts, 2024/3,

5) 経済産業省, 医療機器産業ビジョン 2024,

< [irvoukikisangyouvision2024.pdf \(meti.go.jp\)](#) >

6) Medical Product Outsourcing, The 2022 MPO Top 30 Medical Device Companies Report,

<https://www.mpo-mag.com/issues/2024-07-01/view_top30/the-2024-mpo-top-30-medical-device-companies-report/>

(医療機器政策調査研究所 池田 悠太 記)

医療機器政策調査研究所からのお知らせ [@JFMDA_MDPRO](#)

X (旧 Twitter) で医療機器産業関連のニュースを配信中。医機連トップページからフォローできます。